令和 3 年度「地域活性化推進研究プロジェクト」成果報告書

所属部局名	観光学部	申請者氏名	木川剛志
研究プロジェクト名	県民のライフストーリーから読みとく、戦後和歌山の社会変容		
当初計画に対する目標達成率	85 %	研究プロジェクトの終了時期	令和 4 年 3 月
予算配分総額	500,000 円	経費使用総額	円（担当課で記入）

【研究プロジェクト事業の成果】※具体的に記入してください

本研究の大きなテーマは「ライフストーリー手法を用いて、人々のインタビューを記録し、その記録データをまとめてドキュメンタリー映画を制作し、その映像の学術的成果を問うこと」であり、その事例として戦後和歌山の社会変容を読み解くというものであった

和歌山県内における研究は、那智勝浦・本宮、田辺、和歌山市内にて行った。那智勝浦・本宮は 2021 年 9 月に調査旅行におもむき、那智勝浦中心街、湯の峰温泉などにおいてインタビュー調査を行った。また、田辺市においても中心街と文里港周辺における調査を 2021 年 11 月に行った。また、和歌山市では、和歌山空襲遺族会の主催する西汀公園の清掃活動に参加するなどして、お話をうかがった。ただし、これらの和歌山県内の調査はカメラを回さない予備調査であり、2022 年 1 月から実際の記録撮影を計画していた。ただ、収束するかに思えていたオミクロン株を中心とした新型コロナウイルスが同時期より急激に拡大することになり、撮影をともなった実際の研究は行えなかった。

その一方で、日本オーラルヒストリー学会での発表や下北沢映画祭、うえだ城下町映画祭における Yokosuka1953 の入選をきっかけに、東京都の下北沢の歴史についてのオーラルヒストリー研究を住民から依頼、2022 年の沖縄本土復帰 50 周年に合わせたインタビュー調査を与論町から依頼されることになり、沖縄本土復帰関連映像は与論町の Youtube で公開されている（2022 年 4 月 27 日より）。

和歌山県での調査が本研究の主要な手段であり、それが予備調査に止まったことは残念であるが、学会での発表、また実際の映像（沖縄復帰）が世に出たので、85％の達成率は実現したと考える。

引揚記念碑（和歌山県田辺市）

下北沢駅前（東京都）

与論町民インタビュー（鹿児島県与論町）

【当初計画段階との対比】※上記目標達成率を判断した理由等

本研究は、戦後和歌山の社会変容の研究を通じて、ライフストーリー研究の新しい展開を模索したものである。“研究の新しい展開”については、当初計画よりも進んだものとなった。その点においては達成率は高いと考える。しかし、実際の和歌山の事例については、コロナウイルスの予想外の時期での拡大によって、記録撮影を伴わない予備調査のレベルで止まってしまっている。研究の進んだ点、ただし、和歌山県内の研究の進捗状況を考慮して 85％とした。ただし、戦後和歌山の研究は今後も進める。

【今後の展望等】

○ 研究プロジェクトの発展性（根拠に基づき記入）

日本オーラルヒストリー学会、20 世紀メディア研究所第 154 回研究会において、ライフストーリーを描いたドキュメンタリー映像の学術的価値を多くの研究者に問う機会があった。その研究会で「ドキュメンタリー映画が学術なのではなく、学術の素地の上で制作されたドキュメンタリーであるので学術ではないか」という貴重な意見をいただいた。この姿勢で新しい学問分野を切り開くために、次の外部資金への応募をしている。また、与論町など学術研究としての映像制作を依頼されることもあり、これは今後も期待できる。

○ 外部資金等への申請実績及び今後の予定

科研費の基盤（B）に「スペース・シンタックスとエスノグラフィによる有機的都市形成プロセスモデルの研究」のタイトルで 2021 年度に申請したが、不採択となった。また、いずれも不採択となったが 2022 年度のユニオン造形財団、日本台湾交流協会の研究費にも、本研究からの研究展開で応募した。2022 年度のサントリー文化財団の研究助成「学問の未来を拓く」に現在、応募している。2022 年 7 月に結果が届く予定である。また、今年度の夏頃に予定されている科研費にも応募予定である。

○ 学内における成果の活用（予定も含む）

与論町から依頼された沖縄本土復帰 50 周年記念映像については、すでに授業でも上映し、学生たちの関心を呼んでいる。この映像は 1972 年まであった与論島と沖縄本島の間の北緯 27 度線に国境を挟んだ、与論島民と国頭村民のインタビュー調査をまとめたものである。学生たちは沖縄の人たちの気持ちに触れることで、教科書だけでは学ぶできないことが学ぶことができている。このように映像は現代の学生には高い教育効果を与えるものであり、今後も映像の上映会などで学内において成果を活用していく。

○ 学外における成果の活用（予定も含む）

本研究は、以前に制作したドキュメンタリー映画「Yokosuka1953」の内容と合わせて、日本オーラルヒストリー学会において「戦後混乱期横須賀に生まれた混血児のライフストーリーを描いたドキュメンタリー映画の学術的意味について」のタイトルで発表した（2021 年 9 月）。また、20 世紀メディア研究所第 154 回研究会でも発表した。また、本年度、制作した沖縄復帰 50 周年記念映像については、2022 年 4 月 28 日に開催される与論町でのイベントで上映、Youtube でも公開されている。

○ その他特筆すべき事項

この研究を発想する土台となった、Yokosuka1953 は東京ドキュメンタリー映画祭で長編部門グランプリを得るなど、多くの映画祭で受賞した。この結果、映像制作の依頼を受けることが増え、地元テレビ局においても学生たちを中心とした番組づくりの依頼を受けている。この研究に対する助成によって、新しい展開が動きつつあり、本研究を支えてくれた紀伊半島価値共創基幹と審査員の方々に感謝の言葉を申し上げたい。今後も和歌山の研究に努力したい。

【成果の外部公表の方法及び時期】

研究成果は 2022 年度観光学会「観光学」に投稿する。また、日本オーラル・ヒストリー学会の大会にも応募予定である。また、現在企画中の学生を中心としたドキュメンタリー映像祭（2022 年 12 月ごろ）においても上映するなどして、成果を外部公表したいと考えている。

※研究プロジェクトの内容・成果等がわかるポンチ絵（写真・挿絵など）や関係資料を添付してください。

経 費 等 使 用 調 査

配分額	500,000　円	支出額	500,000　円	残額	0　円

経費別内訳対比表

区　分	配分額				支出額			
	内容	員数	単価（円）	金額（円）	内容	員数	単価（円）	金額（円）
人件費	編集謝金	10	5000	50,000				
	計			50,000				
備品費								
	計							
運営費	旅費	18 回		230,000	旅費	4		95,693
	HD 費用	1		60,000	記録カード	2		32,950
	撮影消耗品	1 式		80,000	撮影消耗品	一式		304,647
	会場費	2	40,000	80,000				
					ソフトウェア	3		66,710
	計			450,000				500,000
合　　計				500,000				500,000